

平成22年度 年次報告書

明石市

Akashi

2011

Environmental Report

環境レポート

はじめに

地球温暖化に代表される環境問題は国際的な問題として、国単位での枠組みにおいて長期目標を定め、その取り組みを進めています。地球環境サミットで1992年に採択された「アジェンダ21」は環境問題への対応として、地方公共団体の役割を重視しています。同サミットでは地球上の様々な生物の生態系を保全する「生物多様性条約」も採択され、明石市ではこれらの趣旨を踏まえた環境行政の取り組みを進めてきました。

地球温暖化対策については、平成13年度より「明石市地球温暖化対策実行計画」に基づき、市の事務事業から発生する温室効果ガスの排出抑制に努めるとともに、平成22年度には、同計画を「ストップ温暖化！低炭素社会のまちあかしプラン」に改定し、市民、事業者を含めた市域全体での温室効果ガス排出量削減計画を策定しました。

また、自然環境や様々な生き物の生態系を保全するため、「つなごう生きもののネットワーク 生物多様性あかし戦略」を平成22年度に策定しました。これは、本市の特徴である「ため池」や「里山」などの豊かな自然を未来の子どもたちに引き継ぐために市として何をしていくかをまとめたものです。

さらに、平成23年度には、平成18年度に市民との協働のもと策定した「明石市環境基本計画（改定版）」を「第2次明石市環境基本計画」として市民参画のもと改定を進めるとともに、「明石市一般廃棄物処理基本計画」の改定を進めています。

これらの計画の実効性の高い推進には、市民のみなさまをはじめ、関係団体や市内事業者、そして明石市を含めた協働での取り組みが必要であり、地域が望む環境を地域の力で実現していくことが望まれます。

このレポートには、自然環境再生への取り組みやくらしの中での環境問題へのチャレンジなどをはじめとして、平成22年度における本市の環境への取り組み状況を紹介しています。本レポートをお読みいただくことにより、みなさまが環境問題をより身近に感じていただき、活動への一步を踏み出していただくきっかけとなりますことを念願するものであります。



明石市長

泉 房 穂

も く じ

1	報告書をご覧くださいにあたって	P.2
	編集方針、主な関連資料の一覧、入手方法	
2	明石市のめざす環境像を実現するために	P.4
	明石市のめざす環境像を実現するための推進体制、エコウイングあかし（明石市環境基本計画推進パートナーシップ協議会）、リーディングプロジェクト（LP）ほか	
3	リーディングプロジェクトの取り組み状況	P.6
	ライフスタイルグループ、エネルギーグループ、自然グループ	
4	自然環境保全への取り組み	P.12
	ため池、河川、海岸・沿岸海域の自然生態調査の実施ほか	
5	地球温暖化対策の取り組み	P.14
	明石市内の温室効果ガス排出量の推計、明石市役所の事務事業による温室効果ガス排出量ほか	
6	環境首都コンテストへの取り組み	P.17
	第10回（平成22年度）環境首都コンテストの結果ほか	
7	明石市環境マネジメントシステム	P.18
	自治体間相互環境監査システム会議、環境目的・環境目標の取り組みほか	
8	平成22（2010）年度の事業評価表	P.23
	環境貢献（取り組み編）環境基本計画に定める取り組み、環境基本計画に定める取り組み以外の取り組み	
	アンケートのお願い	P.33

明石市環境レポート2011－平成22年度年次報告書－ お問い合わせ先

明石市環境部地球環境課 〒673-0882 明石市相生町2丁目5-15（保健センター4階）
Tel：078（918）5029 Fax：078（918）5107
e-mail：plan-ems@city.akashi.lg.jp

1 報告書をご覧いただくにあたって

編集方針

この報告書には、明石市の環境に関する情報について、平成22年度の報告及び平成23年度の予定を掲載しています。対象は、明石市（行政委員会の事務局を含む）の環境施策と事務事業です。

本報告書には、お読みいただいた方のご意見をいただくために、巻末にアンケート用紙を添付しています。今後の明石市の環境関連事業実施の参考にいたしますので、ご意見、ご感想をお寄せください。みなさまとの双方向のコミュニケーションにより、持続可能な社会の実現を進めていきたいと考えています。

主な関連資料の一覧、入手方法

●環境事業概要

明石市の環境行政に関して、環境部の組織、事業、予算、計画、環境美化整備、環境保全対策、し尿、ごみの減量化・資源化及びごみの収集・処理などの各種統計を掲載しています。



環境事業概要

●明石市環境基本計画（平成19年3月改定）

明石市環境基本計画は、市長期総合計画と連携して明石市の望ましい環境像の実現をめざすための基本的方針をまとめたものです。環境基本条例に基づき、明石市の特性を考慮した環境全般の取り組みの基本になる考え方、めざす環境像、取り組みの内容を示しています。なお、平成23年度中に改定を予定しています。



明石市環境基本計画改定版

●ストップ温暖化！低炭素社会のまちあかしプラン

平成22年度に策定した「ストップ温暖化！低炭素社会のまちあかしプラン」は、市の業務だけでなく、市民・事業者も含めた市内全域から排出される温室効果ガスを削減するための数値目標と具体的な取り組みを示しています。なお、これまでの「地球温暖化対策実行計画（平成19年3月改定）」は明石市が市の事務事業を実施する上で排出する温室効果ガスの削減についての計画でした。



ストップ温暖化！
低炭素社会のまちあかしプラン概要版

●つなごう生きもののネットワーク 生物多様性あかし戦略

平成22年度に策定した「つなごう生きもののネットワーク 生物多様性あかし戦略」は、私たち人間が生きるために必要な自然の恵みを大切にすること、すなわち、自然環境や多様な生き物による生物多様性を保全するために必要な取り組みと方針を定めています。



つなごう生きもののネットワーク
生物多様性あかし戦略



つなごう生きもののネットワーク
生物多様性あかし戦略 (概要版)



生物多様性金ヶ崎公園戦略

●明石市環境部地球環境課・環境保全課Webサイト「ECOIST (エコイスト)」

この報告書に掲載していない詳しい情報をホームページで公開しています。

(URL) http://www.city.akashi.lg.jp/kankyou/earth_kankyou_ka/ecoist/index.html



紹介した資料はCD-ROM、印刷物でお渡しすることが可能です。地球環境課にご連絡ください。

明石市環境部地球環境課

TEL : 078 (918) 5029

FAX : 078 (918) 5107

E-mail : plan-ems@city.akashi.lg.jp



ECOISTトップページ

2 明石市のめざす環境像を実現するために

明石市環境基本計画（平成19年3月改定）で定める明石市の「めざす環境像」は、

“おだやかな風土の中で、人々が互いに手を取り合い、
地球環境から身近な自然までを大切にしながら、昔のくらしのよさを受け継ぎ、
豊かな未来への夢を100年先までも持ち続けていきたい”

という市民の想いを表しています。

明石市の「めざす環境像」

水辺や里山は光に映え、まちには人々がにこやかに集う
人と人との思いやり、地球のすべてをいつくしむ
古（いにしえ）に想いをはせ、未来への希望が輝き続けるまち

明石市のめざす環境像を実現するための推進体制

明石市の「めざす環境像」を実現するために、市民、事業者、行政の各主体での取り組み、協働の取り組み、そして推進する体制が必要です。

環境基本計画では、行政だけでなく、市民、事業者との協働＝パートナーシップで計画を進めることを基本としています。

エコウイングあかし（明石市環境基本計画推進パートナーシップ協議会）

「エコウイングあかし」は、環境基本計画を推進し、明石市のめざす環境像を実現するため、平成19年10月に設立された組織です。

エコウイングの「エコ」は環境全般を表し、「ウイング」は翼を表します。
エコの風が大きく翼を広げ、市民、事業者、行政をつないで明石に広がる
イメージとともに、東西に長い明石の地形も表しています。



エコウイングあかし
シンボルマーク

リーディングプロジェクト（LP）

リーディングプロジェクトは、環境基本計画を推進するために市民が考えた取り組みです。エコウイングあかしが中心となって実施するLPへの取り組みが、環境基本計画の推進全体を牽引することを目指して設定されました。

LPは13項目あり、ライフスタイル、エネルギー、自然の3つのグループに分かれて活動しています。グループでは月に1回開催する定例会でプロジェクトの推進方法を検討するなど、活動を進めています。

また、グループのリーダー、サブリーダーは月に1回開催する「企画運営委員会」に出席し、エコウイングあかし全体の課題について検討しています。

※明石市環境基本計画は平成23年度中に改定を予定しています。

エコウイングあかし・平成22年度の主な取り組み

●第4回 エコウイングあかし総会(平成22年5月16日) 会員数79名(総会時点)
会員51名(うち27名委任状)が出席しました。

●活動報告会(平成22年5月16日) 参加者約40名

自動販売機調査、里山保全活動とダンボールコンポストの実践状況を報告し、環境紙芝居「海と空の約束」を上演しました。来場者アンケートのご意見は、その後の活動の参考にしました。



環境紙芝居「海と空の約束」

●エコウイングあかし環境セミナー(平成22年11月～12月) のべ参加者73名

各グループの取り組みに関するテーマについて、大学教授や企業から講師を招き、4週に渡る連続講座を開催しました。専門家によるわかりやすい話に、参加者は熱心に耳を傾けました。

●専用のホームページの運営

エコウイングあかしの活動を広く発信するため、専用のホームページを開設しています。各グループの取り組み紹介、各種イベント案内などの情報を掲載するほか、発行した冊子のダウンロードもしていただけます。

各記事にはコメント入力欄を設けておりますので、ご意見、ご感想などをお寄せください。



エコウイングあかしホームページ トップページ

エコウイングあかし

検索

Click!

エコウイングあかしホームページ

(URL) <http://www.ecowing.net/index.html>

団体間の交流、参画と協働の発展

環境基本計画を推進する上で、さまざまな団体と協働で取り組みを実施しています。今後は、より多くの団体との交流を図り、参画と協働の更なる発展に努めていきます。

協働団体の一覧(50音順)

団体名	
明石市女性団体協議会	子午線ケナフの会
明石シニアカレッジ・環境グループ	瀬戸内を守る明石市民の会
明石市保健衛生推進協議会	西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社
明石 のはらくらぶ	日本たばこ産業株式会社神戸支店
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)	兵庫県地球温暖化防止活動推進連絡会
いなみ野ため池ミュージアム運営協議会	兵庫・水辺ネットワーク
NPO法人環境21の会	森の探偵団
きらりんあかね27	

3 リーディングプロジェクトの取り組み状況

ライフスタイルグループ

LP1 あかし環境マイスター制度

環境資格制度の合格者「環境マイスター」の活動でごみの減量などを進めます。

LP2 暮らしの知恵伝承プロジェクト

風呂敷や布おむつなど、知らなかった暮らしに役立つヒントをみんなで教えあいませんか。

LP3 グリーン購入推進プロジェクト(H22年5月にLP1,2と統合)

毎日の買い物で、地球環境にやさしいことができます。地球環境に配慮した買い物(グリーン購入)を明石市内に広めましょう。

平成22(2010)年度の取り組み状況

●段ボールコンポスト啓発での協働 **関連：LP1**

段ボールコンポストの啓発を明石市資源循環課との協働で実施しました。

下記3会場で段ボールコンポストを展示・配布し、段ボールコンポストを自宅で利用しているメンバーが来場者の疑問点にお答えしました。

今後は、メンバーが自宅で挑戦した段ボールコンポストの経験を市民に対する啓発に活かすことを検討しています。



あかし食育フェスティバルでの段ボールコンポスト啓発の様子

【段ボールコンポスト啓発の活動実績】

参加イベント名	日時・場所	参加者数
あかし原人まつり	5月30日(日) 10時～14時 石ヶ谷公園	約200名
マイカル明石環境フェア	6月5日(土)、6日(日) 各11時～16時 マイカル明石2番街1F「海の広場」	約150名 (2日間合計)
あかし食育フェスティバル	6月26日(土) 11時～15時 明石市立産業交流センター	約130名

※注 マイカル明石は平成23年3月に、イオン明石ショッピングセンターに名称が変わりました。

段ボールコンポストをもっと詳しく知りたい方へ

明石市資源循環課ホームページ「ごみとリサイクル」内「生ごみ減量化大作戦」のコーナーでは段ボールコンポストを利用した“生ごみのたい肥化”の詳しい取り組み方法を紹介しています。

(URL) http://www.city.akashi.lg.jp/kankyou/gomitai_ka/gomi/index.html



●明石市役所グリーンカーテン設置セレモニーに協力(平成22年6月16日) **関連：LP2**

播陽幼稚園の園児48名と一緒に、明石市役所本庁舎でグリーンカーテン用のアサガオとゴーヤの苗の植え付けを行いました。肥料は、メンバーが段ボールコンポストを利用して自宅で生ごみを堆肥化したものを使用しました。

グリーンカーテンって何？

建物の外壁や窓にネットなどを利用してアサガオやゴーヤなどのつる植物をからませて緑のカーテンをすることです。みどりのカーテンが夏の日差しを遮り、室内温度が上がるのを防ぐので、室内冷房に使用するエネルギーを減らすことができます。



播陽幼稚園園児によるアサガオの苗の植え付け

●明石市立図書館「ふれあいエコ教室」を共催(平成22年10月24日) **関連：LP1、2**

明石市立図書館「ふれあいエコ教室」に布ぞうり作りの資材や環境クイズラリーのパネルを提供しました。この教室にはグループメンバーが企画段階から参加しています。また、段ボールコンポストの普及啓発も実施しました。「ふれあいエコ教室」全体で約60名の参加者がありました。

オープニングで実施した環境紙芝居「海と空の約束」では、親子の来場者が紙芝居を楽しんでいました。



「ふれあいエコ教室」での段ボールコンポストの配布

●「環境&消費者フェアinあかし」へのブース出展(平成22年11月3日) **関連：LP1、2**

「環境&消費者フェアinあかし」では明石市立文化博物館ワークショップグループ、明石シニアカレッジ環境グループとの協働でブースを出展しました。

出展内容のうち、明石市役所内使用済ポスターを活用したエコバッグ作りは特に好評で、約60名の参加者は自分だけのオリジナルエコバッグ作りを楽しみました。



「環境&消費者フェアinあかし」でのエコバッグ作り

今後の取り組み予定

- 月に一度、プロジェクト推進のための会議を開催します。
- これまでの取り組みを集約した「くらしの知恵実践マニュアル」冊子を作成し、市民への啓発を進めます。
- グリーンカーテンの実践活動として、公共施設において、メンバーによるゴーヤ等の育成と啓発を行います。
- 明石市内事業所の環境イベントに協力し、ブース出展します。ブースでは子どもを対象としたエコ啓発を実施します。
- 明石市役所内使用済ポスターを活用したエコバッグ作り教室を開催します。



エネルギーグループ

LP4 マイカーの利用を考える運動(平成22年5月にLP7と統合)

自動車の運転を工夫することで、地球にやさしいことができるのをご存知ですか？

LP5 自動販売機の適正化で環境を改善する(平成22年5月に成果を発表をして終了)

自動販売機は便利ですね。でもちょっと視点を変えてみませんか？

LP6 市民太陽光発電所プロジェクト

環境先進国だけの取り組みではありません。市民発電で再生可能エネルギーへの関心を高めます。

LP7 家庭でできる温暖化防止(平成22年5月にLP4と統合)

ほんの少しのことからできる温暖化防止があります。エゴがエコにつながりますよ。

平成22(2010)年度の取り組み状況

●エネルギーグループの活動をPR(平成22年11月3日)

関連：LP4、6、7

「環境&消費者フェアinあかし」でパネルやエコグッズを展示しました。また、事業者と協力して子どもエコカードを配布し、地球温暖化防止と自然エネルギーの活用を啓発しました。



「環境&消費者フェアinあかし」でのエネルギーグループブース

●エコドライブ講習会の実施 関連：LP4

メンバーが講師を務めるエコドライブ講習会を市内で計3回開催(平成22年5月11日、7月27日、8月22日)、のべ36名が参加しました。

メンバーの自家用車に燃費計を取り付け、エコドライブによる効果を測定しました。



自動車に取り付けた燃費計

●活動報告会でLP5の成果報告(平成22年5月16日) 関連：LP5

LP5「自動販売機の適正化で環境を改善する」プロジェクトは自動販売機設置状況調査を終了し、活動内容を総会と同時開催した活動報告会にて発表しました。参加されたみなさんと省エネルギーについて考えました。



プロジェクト成果報告会の様子

●太陽光発電セミナーへの協力(平成22年8月8日) **関連：LP6**

明石市立天文科学館が主催した「太陽光発電セミナー」に協力しました。15組の親子とともに、明石市立天文科学館に設置している太陽光発電システムを見学し、太陽電池を使用したオルゴールを作りました。セミナーを通じて参加者は太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの仕組みを学び、エコウイングあかしのエネルギーグループとして、普及啓発を進めることができました。



明石市立天文科学館の太陽光パネル見学



太陽電池を利用したオルゴール作り

●チャレンジ25キャンペーンへの登録と情報発信 **関連：LP7**

環境省のチャレンジ25キャンペーンに、“チーム「ゆほびか」”を団体チャレンジャーとして登録しました。“チーム「ゆほびか」”の会員を募集し、メンバーは環境家計簿の作成等を通じて、地球温暖化防止に取り組みました。

「ゆほびか通信」(年4回)を発行し、情報を発信しました。



「チャレンジ25キャンペーン」ロゴマーク

今後の取り組み予定

- 月に一度、プロジェクト推進のための会議を開催します。
- エコドライブを推進するため、燃費モニターの募集と実車を使った運転実技講習会を実施します。
- 地球温暖化防止活動を進める“チーム「ゆほびか」”の会員を増やし、環境家計簿から家庭の温暖化防止の実態を分析して、啓発に努めます。また、「家庭でできる地球温暖化防止」マニュアルの作成を検討する「ゆほびか通信」を年4回発行して、活動報告などの情報を発信します。
- 「LP6市民太陽光発電所プロジェクト」は活動内容を見直し、一般家庭での太陽光発電システムをはじめ、再生可能エネルギーの普及啓発を行います。



自然グループ

LP8 水でつながる明石の自然プロジェクト～コウノトリきて！ウミガメきて！大作戦～
明石の代表的な自然である「水」（海、川、ため池…）の環境を改善し、コウノトリがやってくるような自然環境を明石に作ります。可能性はゼロじゃない？

LP9 明石に「ふれあいの里山」を復活させよう!! IN 金ヶ崎公園
夏休みにカブトムシやクワガタを捕まえた思い出。ずーっと明石に残しましょう。

LP10 地産地消あかし流＝えこあぐり（平成22年5月活動停止）
地産池消って明石でもやってるの？できるの？環境とどんな関係があるの？

LP11 みどりのコーディネーター・プロジェクト（平成22年5月活動停止）
まちにみどりを増やしたい市民と行政の緑化施策をつなげます。

LP12 “古（いにしえ）の今”を次世代につなぐ「明石のよいところ」プロジェクト
私だけが知っているんじゃない「明石のよいところ」！（平成22年5月活動停止）

LP13 自然環境ナビ（平成22年5月にLP8と統合）
たくさんある明石の自然・天然資源情報をもっと見やすく。もっとわかりやすく。

平成22（2010）年度の取り組み状況

●金ヶ崎公園里山整備 **関連：LP9**

金ヶ崎公園の2年目の里山整備は、竹林の再生からスタートしました。公園内の13種類の樹木に木製名札を付け、見て楽しく、親しみが持てる公園づくりを目指しています。

活動は毎月第1土曜日に実施、計10回（雨天中止2回）のべ98名が参加しました。そのうち2回は、「兵庫県立人と自然の博物館」の黒田先生の指導の下、植生調査を実施しました。また、兵庫県でも広がりつつある「ナラ枯れ病」への対策講習会に参加しました。そのほか、「生物多様性金ヶ崎公園戦略」の編集への参加、魚住地区の協働のまちづくりを進める取り組みの“うおずみん・ふるさと創生プロジェクト”「自然里山講座」へ協力しました。



里山植生調査の様子



里山整備作業の様子

●明石の海岸線観察会 **関連：LP8**

メンバーで、今後の観察会開催に向けた情報収集のため、江井島海岸から松江海岸まで、海浜植物を中心に観察しました。

●明石市内の環境教育推進グループへの協力 **関連：LP8**

明石公園での夕涼み観察会に共催団体として参加したほか、瀬戸川河口近辺の海岸で野鳥観察会を市民団体と協働で開催しました。

●「明石の自然歩き隊」の実施（平成22年9月11日・9月25日） **関連：LP8**

自然観察ウォーキングイベントを、前編（松陰新田上池周辺から谷八木川上流）、後編（谷八木川中流から八木海岸）の2回にわけて開催し、その成果を取りまとめた「明石の自然歩き隊 冊子第2弾」を編集・作成しました。



松陰新田のウォーキングの様子



谷八木川河口付近での自然観察



明石の自然歩き隊 第2弾

●野鳥観察会の実施（平成22年4月29日、12月4日） **関連：LP8**

金ヶ崎公園で野鳥観察会を開催しました。

●環境学習への積極的な関わり **関連：LP8**

地域の自然を題材に小学3年生への環境体験学習を地域団体、NPOなどとの協働でサポートしました。谷八木小学校では海岸（アマモなど）を、高丘東小学校ではため池（かいぼり）を中心に実施しました。



谷八木海岸での環境学習（谷八木小学校）



中笠池でのかいぼり（高丘東小学校）

●「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」認定団体に選定

県下各地で生物多様性の保全活動を支援するための団体として、明石市で唯一選定されました（平成23年3月31日現在）。

今後の取り組み予定

- 月に一度、プロジェクト推進のための会議を開催します。
- 「ふれあいの里山復活大作戦 IN 金ヶ崎公園」を継続して実施します。
- 環境学習へのサポートを継続します。
- 「つなごう生きもののネットワーク 生物多様性あかし戦略」の行動計画の推進を明石市関係部署と協働で行うとともに、必要な連携協働体制を整備します。
- フォーラム等を開催し、市民への啓発を図ります。
- いなみ野ため池ミュージアム運営協議会へ加入し、関係団体との連携を深めます。
- 環境活動をサポートするグループとの共同事業を積極的に推進します。

4 自然環境保全への取り組み

「つなごう生きもののネットワーク 生物多様性あかし戦略」の策定

明石市では生物多様性基本法に基づき、生物の多様性の保全及び生物多様性の恵みを将来まで持続して利用できるようにするため、「つなごう生きもののネットワーク 生物多様性あかし戦略」を平成23年3月に策定しました。

明石市には代表的な自然環境として、里山林・ため池・河川・海岸があるとともに、水でつながる多様な自然環境に恵まれた水辺豊かな地域です。これらの自然環境を守り、「自然と人が共生するまち“あかし”」を未来の子どもたちに引き継いでいかななくてはなりません。そのためには、行政だけでなく、市民、事業者、市民団体など、多くの主体が協働し、戦略を推進する必要があります。



(将来のイメージ図：出典「つなごう生きもののネットワーク 生物多様性あかし戦略」)

ため池 ため池の環境保全

ため池は農業用水を確保するためにつくられた人工池ですが、防災機能（洪水調整）や親水空間、さらに環境学習の場など、様々な機能を持っています。

また、ため池は多くの生きもののすみかとなっています。特に水生植物では、絶滅危惧種に指定されているものや、全国的に希少なものが明石市のため池で見ることができます。夏になると水面に巨大な葉を広げるオニバス（スイレン科）については、明石市内のため池が西日本有数の群生地として知られており、毎年観察会が開催され、多くの人を魅了しています。

この貴重なため池の環境を保全するため、複数の団体が清掃活動などを行うほか、明石市では水質調査を実施、水質改善や水循環への取り組みなど、保全方法を検討しています。



江井島皿池のオニバス

河川 河川の保全

明石市には、比較的大きな河川として、朝霧川、明石川、谷八木川、赤根川と瀬戸川があります。これらの河川は、ため池と同様に、様々な働きをするとともに、多くの生きものが生息しています。また、平常時は水量が少なく、中州ができやすくなっています。

中州には上流から流れてきたごみが溜まりやすく、周辺の環境に悪影響を与えるため、地域の「川を美しくする会」などの定期的な清掃により、河川環境が保全されています。



瀬戸川



谷八木川

海岸・沿岸海域の自然生態調査の実施

明石市では、「つなごう生きもののネットワーク 生物多様性あかし戦略」推進の基礎資料とするため、市内の自然環境を継続的に調査しています。平成22年度は、海岸・沿岸海域調査を実施しました。

市内の中西部の海岸のほとんどは人工的につくられた海浜です。整備後の年月が経過するにつれて、多様な自然環境を形成しています。特に陸に近い浅瀬では、アマモに代表される海草類や、ワカメ、カジメ、マクサなどの海藻類のほか、貝類や甲殻類が多く、小型魚類や稚魚などのすみかや産卵場となり、海の基礎生産を担う重要な場所となっています。明石市沿岸は明石海峡の潮流の影響で良好な水質を保っており、海底は起伏に富み、多種多様な生きものが生息しています。



藤江海岸



谷八木海岸

明石の水辺観察会の実施

平成22年の夏は、全国各地で最高気温観測値を更新するなど猛暑日が続きましたが、明石市では猛暑日は2日のみでした。その要因のひとつとして、明石市には「ため池」「水路」「河川」「海」へと、水でつながる自然が存在することが考えられます。

このような人の暮らしや自然環境に深い関わりのある水のつながりを「水辺空間」の視点で捉え、参加者が明石を再発見する「ブルーツアー」を実施しました。



大蔵海岸



林崎掘割



西島皿池

5 地球温暖化対策の取り組み

ストップ温暖化！低炭素社会のまちあかしプラン

明石市は地球温暖化対策を推進するため「ストップ温暖化！低炭素社会のまちあかしプラン」を平成23年3月に策定しました。

この計画では、市役所の事務事業だけでなく、市民・事業者の活動から排出される温室効果ガスを削減するための具体的な施策を定めています。良好な環境を将来の子どもたちに引き継ぐには行政だけでなく、市民と事業者が協力して温室効果ガスの排出が少ないライフスタイルへと転換することが必要です。

明石市内の温室効果ガス排出量の推計

温室効果ガスの実績値（平成20年度まで）と目標値は以下のとおりです。なお、平成22年度には平成20年度の排出量の測定が可能となりました。

平成20年度に明石市内から発生した温室効果ガスの排出量は、二酸化炭素に換算すると1,693,176t-CO₂となり、計画の基準年度である平成2年度と比較して12.8%減少となりました。

明石市内の温室効果ガス排出量の実績値（平成20年度まで）と目標値

区 分	実績値			目標値		
	平成2年度 (1990年度)	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成24年度 (2012年度)	平成32年度 (2020年度)	平成62年度 (2050年度)
温室効果ガス (t-CO ₂ /年)	1,940,845	1,873,447	1,693,176	1,601,197	1,455,634	388,169
1990年度を100とした場合の指数	100	96.5	87.2	82.5	75.0	20.0

部門別では、民生部門（家庭系）、民生部門（業務系）、廃棄物、代替フロン等の4区分が増加すると予測されます。平成23年度以降は、「ストップ温暖化！低炭素社会のまちあかしプラン」に定める施策を推進し、温室効果ガスの排出量を減らすことが必要です。

平成2年度を100とした場合の部門ごとの指数

区 分	実績値			対策を行わない場合の将来推計			
	平成2年度 (1990年度)	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成24年度 (2012年度)	平成32年度 (2020年度)	平成62年度 (2050年度)	
二酸化炭素、 メタン、 代替フロン等	産業部門	100	78	68	86	95	93
	運輸部門	100	88	84	71	74	72
	民生部門（家庭系）	100	139	122	146	150	136
	民生部門（業務系）	100	131	112	140	153	154
	工業プロセス	100	26	22	26	27	26
	農 業	100	54	53	25	25	25
	廃棄物	100	243	250	237	233	216
代替フロン等	100	69	67	115	174	174	

※代替フロン等の平成19, 24, 32, 62年度の指数は違算があったため、修正しています。

明石市役所の事務事業による温室効果ガス排出量

平成22年度の市役所の事務事業による温室効果ガスの排出量は、二酸化炭素に換算すると91,331t-CO₂でした。これを吸収するには、約6,523,600本の杉の木が必要で、明石市の約2倍(約9,319ha)の面積の杉林が必要となります。

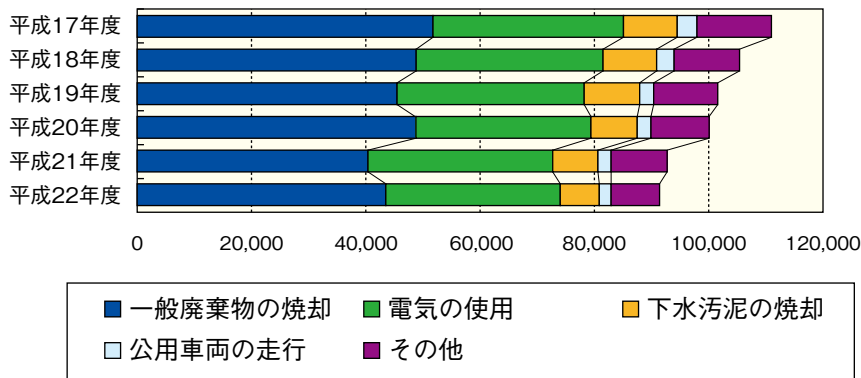
温室効果ガスの排出量は、明石市温暖化対策実行計画の基準年(平成17年度)と比較して17.6%減少しています。この削減量は約1,394,000本の杉の木が吸収する量に匹敵します。

なお、廃プラスチックの焼却に起因する二酸化炭素、電気の使用に伴う二酸化炭素の排出割合が特に多く、これらの対策を急ぐ必要があります。

※ 杉の木1本あたりのCO₂吸収量：14kg/本・年(環境省・林野庁による)、植林密度：700本/ha

明石市の事務事業による温室効果ガス排出量(単位 t-CO₂)

種類 \ 年度	平成17年度 (2005年度)	平成18年度 (2006年度)	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)
一般廃棄物の焼却	51,906	49,038	45,078	48,512	39,678	41,995
電気の使用	33,064	32,493	33,071	30,902	32,279	30,807
下水汚泥の焼却	9,448	9,140	9,559	8,058	8,022	7,322
公用車両の走行	3,431	2,607	2,565	2,513	2,222	2,031
その他	12,995	11,897	11,261	10,003	10,399	9,176
合計	110,844	105,175	101,534	99,988	92,600	91,331
対17年度削減率	—	-5.1%	-8.4%	-9.8%	-16.5%	-17.6%



温室効果ガス排出の個別の状況

●一般廃棄物の焼却

一般廃棄物の焼却による温室効果ガス排出のほとんどは、廃プラスチックが原因です。焼却ごみの組成分析から推計した平成22年度の廃プラスチック焼却量は14,947tでした(平成17年度比：19.9%減少)。

●電気の使用

平成22年度の電気使用量は80,227,783kWhでした(平成17年度比：6.8%減少)。電気使用量は、気候的な要因により変動しますが、更に削減を進めることも必要です。

明石市の事務事業で使用した電気使用量(単位 kWh)

種 類 \ 年 度	平成17年度 (2005年度)	平成18年度 (2006年度)	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)
水 道	29,533,231	27,567,118	27,947,616	25,835,684	26,032,360	26,836,652
下 水 道	25,969,536	25,566,514	26,258,710	25,222,193	25,292,363	25,662,215
学 校 園	7,066,214	7,126,674	7,278,364	7,219,939	7,130,068	8,107,657
市 民 病 院	5,092,513	5,103,566	5,361,898	5,131,472	4,912,540	4,912,922
街 灯	3,639,342	3,675,000	3,815,491	3,405,590	3,818,835	3,840,515
そ の 他	14,804,098	15,577,490	15,459,242	13,658,835	16,873,830	10,867,822
合 計	86,104,934	84,616,362	86,121,321	80,473,713	84,059,996	80,227,783
対平成17年度削減率	—	-1.7%	0.0%	-6.5%	-2.4%	-6.8%

明石クリーンセンターでは「ごみの焼却熱」を有効利用して発電を行っています。発電した電気は明石クリーンセンターの各施設、隣接庁舎へ供給し、残りを売電しています。平成22年度の売電量は22,763,740kWhでした。

地球温暖化対策の啓発活動

●明石市住宅用太陽光発電設備設置補助金

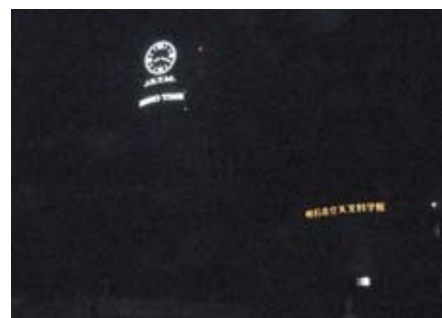
平成22年度より住宅用太陽光設備の普及を図るため、個人が住宅に太陽光設備を設置される場合にその経費の一部の補助を始めました。

平成22年度は174件、647.39キロワットの太陽光発電設備に1,300万円を補助しました。

●あかしたなばた☆ライトダウン

6月21日(夏至)から7月7日(七夕)まで、全国的な節電行動としてライトアップ施設や家庭の電気を消灯する「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」が実施されました。

明石市でも、7月7日の午後8時から10時の2時間、明石市の施設や明石駅前周辺のネオンサイン等を消灯しました。41施設が参加し、約650kWhの消費電力を削減しました。



天文科学館のライトダウン

●あかし打ち水大作戦(平成22年8月12日)

都市部のヒートアイランド現象を和らげる日本古来の知恵「打ち水」を紹介する取り組みです。明石市立天文科学館の玄関前で、約160名の協力により実施しました。

参加者の一斉打ち水で地表温度が6.4℃下がりました。天文科学館のシゴセンジャーたちがゲスト出演し、参加者は楽しみながら冷房に頼らない“涼”を体感しました。



天文科学館玄関前での打ち水

打ち水効果って何？

熱せられた地面に水をまくと水が地面の熱を奪って蒸発します。熱を大気中に逃がす効果で地面の温度が下がるので、気温が低く抑えられます。

6 環境首都コンテストへの取り組み

環境首都コンテストとは

明石市は、平成22年度も20、21年度に引き続き「環境首都コンテスト」に参加しました。

「環境首都コンテスト」は、日本全国の環境問題に取り組むNGO（非政府組織）が理想とする自治体の姿を基に設問が設定され、参加自治体はその設問に回答し、回答内容を評価されるコンテストです。コンテストの結果は、環境NGOが考える“理想の自治体”に、明石市がどれだけ近づいているかを表しています。コンテストへの参加は、得意分野を更に伸ばし、チャレンジ分野への財政面・人材面の効果的投資を市役所全体で考えるよい機会となります。

平成13年度から平成22年度までの10回の開催予定のうち、明石市は第2回（平成14年度）から第4回（平成16年度）、第8回（平成20年度）、第9回（平成21年度）と第10回（平成22年度）に参加しました。

第10回（平成22年度）環境首都コンテストの結果

●総合 14位（58自治体中）／人口規模別 7位（16自治体中）

前回の平成21年度より、**総合順位が2つ上がり**、人口規模別では**昨年と同等**でした。

●明石市の得意分野

「アジェンダ・環境基本計画」、
「環境マネジメントシステム」、
「情報公開」

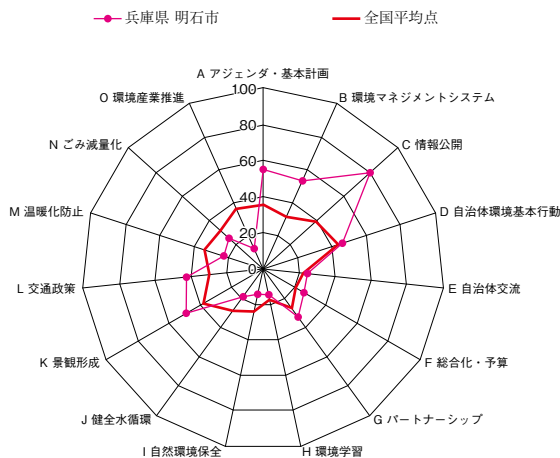
●明石市のチャレンジ分野

「環境学習」、「環境産業推進」、
「自然環境保全」

●先進事例特別表彰を受賞

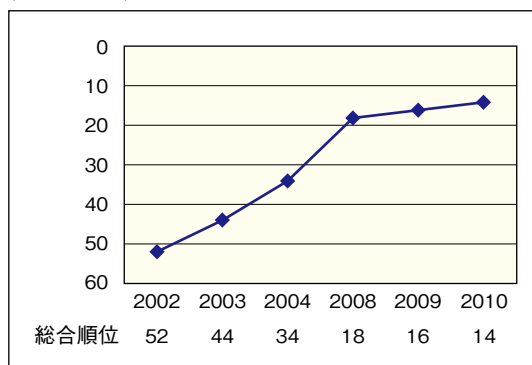
協働のまちづくりを実現するためにコミュニティ推進室が推進する「明石市民提案型パイロット協働事業」が高く評価され、先進事例特別表彰を受賞しました。これらの結果を環境施策に活かしていきます。

配点に対する得点率（％）

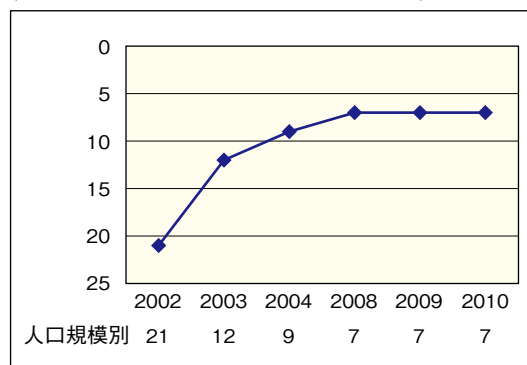


順位の推移

（総合順位）



（人口規模別：10～30万人の自治体）



7 明石市環境マネジメントシステム

環境基本計画の進捗管理と環境の継続的な改善のために、明石市では平成12年度から「環境マネジメントシステム」を導入しています。

明石市環境マネジメントシステムとは

環境マネジメントシステムは、企業や地方公共団体等が積極的に環境保全行動に取り組み、自主的・継続的に改善する仕組みです。

明石市では、平成12年度に「環境マネジメントシステム」を導入し、国際規格ISO14001を平成13年3月14日に認証取得しました。

その後、環境配慮意識が職員に浸透したことから、外部審査機関による審査を受けずに、規格との適合性を自ら判断する「自己宣言」方式へ平成19年3月13日に移行しました。



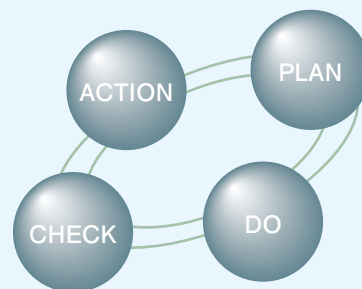
明石市環境マネジメントシステムが自己宣言のもと、確立されていることを示すマーク

明石市環境マネジメントシステムの適用範囲

明石市役所本庁舎と市関連施設の事務・事業活動が適用範囲です。

●システムを運用するしくみ(PDCAサイクル)

- ① **P L A N** : 環境保全のための方針を立て目標を設定し、具体的な行動計画を立てる
- ② **D O** : 行動計画を実施する
- ③ **C H E C K** : 行動計画が適切に運用されているか実施状況や成果を点検する
- ④ **A C T I O N** : 点検結果を参考にシステムを見直し、改善する



①～④の繰り返し(=PDCAサイクル)により、継続的なシステムの改善を図ります。

自治体間相互環境監査システム会議

環境マネジメントシステムの透明性と信頼性をより高めるため、阪神播磨地域の自治体間で相互環境監査システムを構築し、運営しています。平成22年度は6市(姫路市、尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、明石市：明石市以外は行政順)が締結した「環境マネジメントシステムに係る自治体間相互環境監査に関する覚書」に基づき、明石市内部環境監査に西宮市と伊丹市の職員が、明石市職員が西宮市と伊丹市の監査に参加しました。平成19年度の発足当初は参加自治体数は5市でしたが、平成21年度のオブザーバー参加を含めた6市を経て、平成23年度には芦屋市が加わり、7市での相互環境監査となる予定です。

また、この取り組みが全国的にも注目を集めており、平成22年7月に開催された第1回自治体EMS研修会で明石市の事例を報告しました。(EMSとはEnvironmental Management System：環境マネジメントシステムのことをいいます)

環境目的・環境目標の取り組み

「環境目的・環境目標」として、市役所の事務・事業活動で環境に特に良い影響を与えるもの、悪い影響を与えるものを抽出しています。抽出した項目に、目的・目標・行動計画を設定し、目標の達成に向けた環境改善行動に取り組んでいます。

平成22年度は、以下の3項目に取り組みました。

● 「公共事業における環境配慮」

公共事業実施に際して環境配慮に関する取り組み

● 「環境貢献(エコオフィス編)」

コピー用紙の使用、ガソリンの消費、電気の消費、都市ガスの消費について、各課で数値目標を設定して活動する資源使用量とエネルギー使用量削減の取り組み

● 「環境貢献(取り組み編)」

課の業務の中で環境貢献できるものについて目標を設定する環境改善の取り組み

該当部局での取り組み「公共事業への環境配慮」

市役所の公共事業を実施する部局では、「明石市の公共事業における環境配慮指針」に基づいて、事業の環境配慮に取り組んでいます。指針には、全公共事業の共通事項の他に、農水、道路、海岸、河川、建築、公園、下水、水道について個別のチェック項目があり、①計画、②設計、③施工の3段階で評価を実施します。

各部局では、評価結果から総括と翌年度の目標設定をし、事業改善に取り組んでいます。

公共事業への環境配慮 平成22年度の実施結果

市の該当部局	目標値	実績値	目標比向上	目標達成
産業振興部 (農水)	75.0%	該当工事なし		
土木部 (道路、海岸、河川)	90.0%	→ 91.4%	+1.4%	○
都市整備部 (建築、公園)	83.0%	→ 76.5%	-6.5%	×
下水道部 (下水)	83.5%	→ 84.0%	+0.5%	○
水道部 (水道)	85.4%	→ 86.6%	+1.2%	○

※ 各部局は実施する公共事業、チェック項目が異なるため、結果には差が生じています。

平成22年度は上記の5部で取り組み、うち3部で目標を達成しました。事業を実際に進める際に当初予定から変更等が生じたことで、1部では目標を達成できませんでした。農水(産業振興部)と海岸、河川(土木部)は、平成22年度は該当する公共事業がありませんでした。

環境貢献(エコオフィス編)

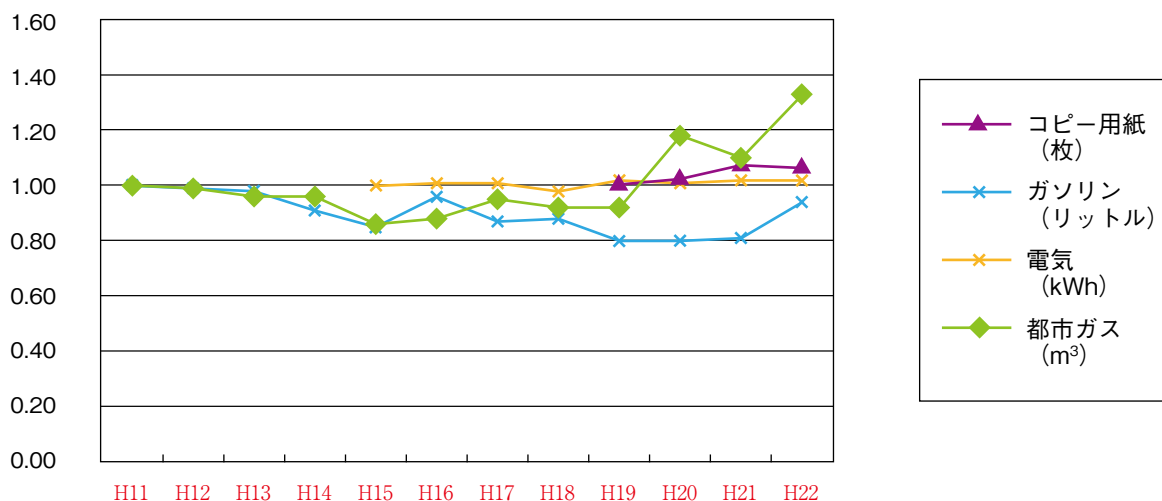
市役所の事務活動で使用する「コピー用紙」、「ガソリン」、「電気」と「都市ガス」の4項目について、各課で目標値を設定し、省資源・省エネルギーに取り組みました。

エコオフィス 平成22年度の実施結果(市役所全体)

項目	使用量の目標と結果	目標達成
コピー用紙	18,772,559枚(前年比約0.32%の削減)	27課(58課中)で目標達成
ガソリン	99,669リットル(前年比約16%の増加) 主な増加理由: 公用自動車台数及び対象課の増加	15課(35課中)で目標達成
電気	3,464,218kWh(前年比約0.52%の削減)	4課(5課中)で目標達成
都市ガス	101,165m ³ (前年比約39%の増加) 主な増加理由: 設備の故障、執務室の増加、気温の急激な変化に伴う空調機器使用増	1課(2課中)で目標達成

市役所全体では、ガソリン、都市ガスの使用量が大幅に増加しました。

この結果を受けて平成23年度から、市役所全体での省エネルギーの取り組みをより徹底していきます。なお、下のグラフで、平成11年度からの推移を表しています。



実績値の経年変化 (H11比)

※都市ガスの平成21年度の実績値は違算があったため、修正しています。

※コピー用紙使用量の測定は、平成19年度に大幅に実績値測定を見直したため、平成19年度からの経年変化を見ています。

※電気使用量は、平成15年度に消防施設(明石市防災センター)が加わるなど大きな変更があったため、平成15年度からの経年変化を見ています。

環境貢献（取り組み編）

環境基本計画で定めている行政が主体的にすすめる45の取り組みを中心に、市役所の各課で取り組む環境に良い影響を与える事業を抽出したものです。原則として四半期ごとに自己評価し、改善に取り組みました。平成22年度は75課158項目が対象です。

以下に、市民に展開した事例を紹介しています。P.23～32に、事業評価表を掲載しています。

環境貢献（取り組み編） 平成22年度の各課評価（75課 158項目）

達成度	実施時期	環境目標の達成状況 (各課年間評価)	全体に占める割合
◎：期待を上回る		14項目	8.9%
○：期待どおり		129項目	81.6%
△：期待を下回る		14項目	8.9%
－：実施予定なし		1項目	0.6%

●保険・健康部健康推進課

健康推進課では、健康づくりに関するメッセージを印刷したステッカーを階段に貼ることにより、市民が健康に対する意識を高め、階段利用を促進する取り組みを行っています。階段利用の促進は、エレベーターの使用が控えられ、電気使用量削減にもつながります。

平成22年度は、JR大久保駅、健康福祉事務所、市立保健センター等において実施しました（事業評価表P.32に記載）。平成23年度は設置場所を拡大していく予定です。



大久保駅階段に貼ったステッカー

●下水道部下水道総務課

雨水貯留タンクは、雨水が集中豪雨時に河川等へ大量に流出することを軽減し、水資源を有効に利用するための設備で、防災と環境の両面の効果があります。

下水道総務課では、家庭への雨水貯留タンクの設置を促進するため、市民に設置の助成を行いました。平成22年度は、47件に助成金を交付しました（事業評価表P.24に記載）。



雨水貯留タンク

明石市内部環境監査の実施

内部環境監査は、明石市環境マネジメントシステムが、ISO14001規格の要求事項に適合し、有効に機能しているかを評価するために実施しています。現在、市役所職員と自治体間相互環境監査システムにより派遣される他自治体職員が監査員を務めています。監査員は事前に内部環境監査員養成研修を受講し、監査能力の研鑽に励んでいます。

内部環境監査の結果は、内部環境監査結果報告書として、環境管理総括者（市長）に情報提供され、マネジメントシステムの見直しに活かされています。また、監査で指摘事項や提案事項があった項目は、修正・改善し、今後の環境目標設定等に反映されるとともに、模範となる点については参考事例として市役所内に広く周知しています。



内部環境監査員研修のようす

平成22年度の内部環境監査

環境管理総括者（市長）が任命及び指名した内部環境監査責任者、同副責任者、主任内部環境監査員及び内部環境監査員のほか、自治体間相互監査員の2名を加えた34名体制で、平成22年度の内部環境監査を実施しました。

市役所の監査対象部局、課に7月から8月にかけて実施した結果、すべての部局で優れている点や模範となる点が確認されました。

●優れている点や他の模範とすべき点

日常業務の中で環境への配慮を意識づける内容等、合計43件の報告がありました。
以下はその例です。

- ・環境管理推進事務局による環境目標設定方法の改善（環境目標を課の業務の中から設定することで、各課から環境に対する取り組み案が多く出されるようになった）
- ・省エネ効果の高いLED電球への交換実施と交換計画の確認が必要
- ・各課で実施する事業において、環境部と連携して環境に関する情報の提供予定の確認が必要

環境管理総括者（市長）による見直し

毎年度末、環境管理総括者（市長）が環境マネジメントシステムの見直しを行います。平成22年度は、平成23年3月29日に実施しました。指示事項は以下の2点です。

- (1) これまでの取り組みを定着させながら、引き続き分かりやすく、実践しやすいシステムづくりを進めること
- (2) PDCAによる進捗管理を行い、「ストップ温暖化！低炭素社会のまちあかしプラン」、「つなごう生きもののネットワーク 生物多様性あかし戦略」を推進すること

なお、平成21年度に市長から指示のあった「わかりやすく、実践しやすいシステムづくりの検討」「環境に関する取り組みの発信方法の新しい工夫」への対応として環境貢献（エコオフィス編）（取り組み編）の整理、内部環境監査の合理的改善への検討を行いました。

8 平成22(2010)年度の事業評価表

平成22年度に実施した明石市の各課の環境貢献(取り組み編)の内容と評価を、以下の一覧表に掲載しています。

環境貢献(取り組み編) 環境基本計画に定める取り組み：53課121項目

課名	事務事業名	H22年度目標(環境目標)	取り組み内容・成果	達成度
1. 環境教育・環境学習の推進				
生涯学習センター	環境教育・環境学習の推進	生涯学習センターとコミセンで環境問題に関する市民講座を開催する。	講座の開催、クリーンアップ作戦を実施した。自主事業としての講座開催も検討が必要である。	△
資源循環課	環境副読本の作成(ごみ減量化推進事業)	環境副読本を作成し、授業用に、市内全校の小学4年生へ配布する。	副読本を作成し、市内全校の小学4年生に配布した。	○
教育委員会 学校管理課	みんなで学校園を美しくする運動事業	運動を展開することで、教育環境を整備する。	各学校園で、清掃・修繕などに取り組み、学校園の環境整備を図った。	○
明石商業 高等学校	奉仕活動	地域環境美化に努める。	3年生と教員が通学路のごみ拾い清掃を行い、地域環境美化に取り組んだ。	○
予防課	防災センター運営事業	防災センターでの集客イベントを開催する。(目標12回)	キュー助文庫の読み聞かせ(12回)、防火ポスター展を開催した。	○
消防署	消防署運営事業	市民への防火意識啓発、自主防災組織等への訓練指導を実施する。	防火指導及び訓練指導を実施し、火災による損害額を37%減少することが出来た。	○
2. 自然観察会など、環境学習を目的とするイベントの充実				
天文科学館	観望会及び夏期の全国星空継続観測の実施	イベントの参加者を増やす。	観望会及び全国星空継続観測のPRをした。	○
3. 環境活動拠点の設置・機能拡充				
コミュニティ 推進室	環境活動拠点の設置・機能拡充	コミセンにおける啓発パンフレット等の配布機会を拡充する。	コミセンで環境啓発パンフレット等を配布した。	○
環境保全課	環境共生啓発事業	環境学習支援制度を推進する。	小学校等に講師派遣(3件)、啓発機材等の貸出(17件)を行い、環境学習を支援した。	○
4. 遊休農地を活用した市民農園の整備				
農水産課	市民農園管理運営事業	供給システムを有効に活用し、牛ふん堆肥を安定的に供給する。	供給システムを有効に利用し安定供給ができた。	○
5. 人材の育成及び派遣				
地球環境課	環境共生啓発事業(環境学習支援制度)	環境学習支援制度を推進する。(年間5回以上の講座開催)	出前講座を5回実施した。生物多様性の戦略案について説明した。	○
6. 市役所職員への環境に対する意識啓発の充実				
人材開発課	能力開発支援事業	新規採用職員研修での環境問題プログラムを実施する。	研修でごみ分別を呼びかけ、職員の環境意識が高まった。	○
地球環境課	EMS運用事業(環境管理研修)	EMSの取り組みを通して、職員の知識・技能の習得と向上を図る。	研修用資料を見直し、資料のコピー用紙使用量を削減した。	○
7. 図書館における環境関連資料の充実				
地域連携課	図書館運営事業	環境問題への関心や理解を深める。	120冊の環境関連図書を購入し、ふれあいエコ教室を開催した。	○
8. 自然に関する調査及び環境マップの作成と普及促進				
地球環境課	環境基本計画等推進事業(自然に関するプロジェクト)※	自然環境データを収集・整理し、里山と里海再生活動を推進する。	里山整備を月1回開催した。「明石の自然歩き隊」を開催し冊子を作成した。	◎

※達成度 ◎：期待を上回る、○：期待どおり、△：期待を下回る、×：実施可能だが未実施、－：実施予定なし

課名	事務事業名	H22年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
9. 環境情報システムの整備推進とその効果的な運用				
地球環境課	環境基本計画等推進事業（年次報告書）	市民がわかりやすい年次報告書を作成し、冊子やWebで公表する。	市民、環境審議会委員などの意見を踏まえた年次報告書を公表した。	○
資源循環課	ホームページの運営（ごみ減量化推進事業）	ホームページで積極的に情報を発信・更新する。	環境イベント、審議会の議会内容、推進員・協力員活動報告等の情報を提供した。	○
10. 大気、水質、騒音及び有害科学物質等の監視・観測体制の充実				
政策室	地下水保全に関する事務	条例の規定に基づく規制を行う。	届出書類を適切に処理し、届出対象外の井戸へも同様の書類提出を依頼した。	○
環境保全課	環境監視事業（大気、水質、騒音等）	環境測定を実施する。	新幹線の騒音・振動（5地点）、有害大気汚染物質（12回）等の定期測定を実施した。	◎
環境保全課	環境監視事業（大気、水質、騒音等）	法に基づき大気汚染の自動測定、光化学スモッグ予報時の対応をする。	自動測定局での監視を実施し、現在の環境状況を把握している。	◎
環境保全課	環境監視事業（大気、水質、騒音等）	水質汚濁防止法に基づき水質汚濁の監視を行う。	水質調査（5河川、地下水16地点、3海水浴場）を実施した。	◎
11. 環境汚染物質などに関する調査・測定データの積極的な公開				
環境保全課	環境共生啓発事業	適切な情報を提供する。	「環境の概況」の冊子を作成し、HPに更新した。	○
12. 環境に配慮したライフスタイルの推進				
男女共同参画課	消費者フェア	環境に配慮したライフスタイルを推進する。	パネル展示などで意識啓発を行った。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業（ライフスタイルに関するプロジェクト）※	ごみ減量に関する出前講座の実施、くらしの知恵に関する教室を開催する。	出前講座・教室を実施し、環境フェアでのエコバッグ作りを実施した。	◎
地球環境課	環境基本計画等推進事業（エネルギーに関するプロジェクト）※	自動販売機調査結果の分析・公表、エコドライブ講習会の開催、太陽光発電の普及啓発を実施する。	エコドライブの講習会を3回開催した。環境省のチャレンジ25キャンペーンに登録し、メンバーを募集した。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業（自然に関するプロジェクト）※	自然環境データを収集・整理し、里山及び里海再生活動を推進する。	里山整備を月1回開催した。「明石の自然歩き隊」を開催し冊子を作成した。	◎
下水道総務課	雨水貯留タンク設置助成事業	水資源の有効利用と水循環型社会の創出環境に対する市民の意識高揚を図る。	広報紙・HPへ関連情報を掲載し、出前講座を実施した結果、47件の助成ができた。	○
13. 環境影響評価の推進				
地球環境課	環境基本計画等推進事業（エネルギーに関するプロジェクト）※	自動販売機調査結果の分析・公表、エコドライブ講習会の開催、太陽光発電の普及啓発を実施する。	エコドライブの講習会を3回開催した。環境省のチャレンジ25キャンペーンに登録し、メンバーを募集した。	○
14. 地域環境美化活動への市民参加の促進				
地球環境課	環境美化推進事業（散乱ごみ、ふん害の防止）	ポイ捨て・ふん害に対する啓発事業を実施する。	ふん害防止パトロールを継続して実施している。	○
地球環境課	環境美化推進事業（きらりん明石ポイ捨てパッテン運動）	自主的に清掃活動を行う個人や団体数を増やす。	ボランティア団体と清掃活動を継続して実施し、女性団体協議会をアダプト制度に登録した。	○
環境第2課	屋外一斉清掃（ごみ収集運搬事業）	屋外一斉清掃の趣旨を自治会（町内会）に確認する。	地域住民による一斉清掃の実施を啓発し、延べ1,415団体の活動成果が832.64tになった。	○
緑化公園課	公園維持管理事業	良好な都市景観の保全・創造を推進する。	公園愛護会による公園清掃を実施し、公園の美化に努めた。	○
緑化公園課	緑化推進事業（緑化思想の啓蒙）	明石駅前の緑化空間をよりよい形で市民に提供する。	ボランティア団体が花壇の植え替え作業を年に4回実施し、除草等適切な維持管理を実施している。	○

※達成度 ◎：期待を上回る、○：期待どおり、△：期待を下回る、×：実施可能だが未実施、－：実施予定なし

課名	事務事業名	H22年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
15. 事業者による公害防止対策の推進				
環境保全課	環境に係る事業者への規制・指導事業	法令に基づく立入検査・届出受理を実施する。 （大気・騒音・振動等関係）	大気・騒音・振動等に関する立入検査・届出受理を予定通り実施した。	○
環境保全課	環境に係る事業者への規制・指導事業	法令に基づく立入検査・届出受理を実施する。 （水質汚濁・土壌汚染関係）	水質汚濁・土壌汚染等に関する立入検査・届出受理を予定通り実施した。	○
商工労政課	工場の設置届けに係る事務（工場立地の適正化）	準則に沿った工場の立地を促進する。	届出に対する問合せへの対応を行い、事業所にスムーズな対応ができるようになった。	○
予防課	予防活動事業（危険物規制）	事業所等危険物施設への消防査察を実施する。（目標：60件）	146施設の事業所等危険物施設への消防査察を実施し、目標を達成できた。	◎
予防課	予防活動事業（一般予防・設備指導）	防火対象物への消防査察を実施する。	事業所等の防火対象物への消防査察を実施した。	○
16. 自発的な活動の支援				
コミュニティ推進室	自発的な活動の支援	グループ、NPOの活動内容をより充実させる。	グループへの活動経費の助成、交流会、成果報告会を開催した。	○
17. ごみの発生抑制の促進				
大久保市民センター	会議室利用者のマナー向上※	会議室利用者が自主的に地球環境に配慮できるように促す。	会議室申込時に利用者へパンフレットを渡し、利用者に環境配慮を周知した。	○
魚住市民センター	会議室利用者のマナー向上※	会議室利用者が自主的に地球環境に配慮できるように促す。	会議室許可書の裏面を利用してお願い文を配布し、利用者に環境配慮を周知した。	○
二見市民センター	会議室利用者のマナー向上※	会議室利用者が自主的に地球環境に配慮できるように促す。	会議室許可書の裏面を利用してお願い文を配布し、利用者に環境配慮を周知した。	○
福祉総務課	イベント時に会場で発生するごみの分別を徹底する	イベント時のごみの分別を徹底する。	ごみの種類を明示し、ごみの分別及び減量化を徹底した。	◎
資源循環課	大規模事業所の減量・適正処理事業（ごみ減量化推進事業）	減量化計画書による基礎データを把握し、事業者指導資料を収集する。	大規模事業所を指定し、事業者へ減量・資源化の指導・助言を行った。	○
18. グリーン購入の促進				
契約課	契約事務事業	グリーン購入推進を継続した。	H22年度の印刷発注で、グリーン購入基準に適合していない仕様書はなかった。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業（ライフスタイルに関するプロジェクト）※	ごみ減量に関する出前講座の実施、くらしの知恵に関する教室を開催する。	出前講座・教室の実施、環境フェアでのエコバッグ作りを実施した。	◎
住宅課	市営住宅維持管理事業	環境面にも配慮した事業を推進する。	市営住宅維持管理において、環境に配慮した物品（消火器）を発注した。	○
19. 紙の使用抑制、リサイクルの推進				
総務課	文書管理事務事業（古紙回収）	平成21年度比3%以上の古紙回収を実施する。 （目標118,041kg）	庁内で発生した古紙を回収し、再生処理を依頼した。 （H22年度実績100,290kg）	○
情報管理課	共同運営による電子申請システム構築	電子申請システム、簡易申請システムの利用促進を図る。	簡易申請システムの新規手続の運用を開始した。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業（ライフスタイルに関するプロジェクト）※	ごみ減量に関する出前講座を実施し、くらしの知恵に関する教室を開催する。	出前講座・教室の実施、環境フェアでのエコバッグ作りを実施した。	◎
資源循環課	再生家具展示会の開催（ごみ減量化推進事業）	展示会を4回以上開催する。	再生利用家具展示会を4回開催した。	○
交通部総務課	古紙リサイクルの徹底	前年度より紙の使用量を削減する。（H21年度121,875枚）	環境貢献の具体的内容を職場内で周知徹底し、紙の使用量を削減した。 （H22年度 89,303枚 26.7%減）	○

※達成度 ◎：期待を上回る、○：期待どおり、△：期待を下回る、×：実施可能だが未実施、－：実施予定なし

課名	事務事業名	H22年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
19. 紙の使用抑制、リサイクルの推進				
農業委員会事務局	廃棄物に含まれるメモ用紙等の雑紙ごみを回収し、再生紙にまわす	紙ごみ回収を徹底する。	「紙ごみ専用」と表示した箱を事務机周辺に置き、紙ごみの回収を実施した。	○
20. ごみの分別の徹底と資源化の促進				
障害福祉課	イベント時に会場で発生するごみの分別を徹底する	イベント時のごみの分別を徹底し、ごみ量を前年度比20%削減する。	設置したごみ箱に種類を明示し、参加者にごみの分別の必要性をアピールした。	○
児童福祉課	イベント時に会場で発生するごみの分別を徹底する	イベント時のごみの分別を徹底する。	ごみの分別を徹底し減量化するとともに、ごみの持ち帰りで会場の美化に努めた。	○
環境第2課	ごみの分別収集と資源化の促進（ごみ収集運搬事業）	分別状況の悪いごみステーションを把握し、分別収集の徹底化を図る。	ごみ出しマナーの悪い地域等に啓発チラシを配布した。（H22年度 1,827枚）	◎
天文科学館	イベント時に会場で発生するごみの分別及び来場者への公共交通機関の利用促進を徹底する	イベント時にごみを分別する。来場者に公共交通機関利用促進を徹底する。	ごみ箱にごみの種類を明示した。広報誌等で公共交通機関の利用を促した。	△
市議会事務局	事務局及び議員控室より出る紙類の分別を徹底する	可燃ごみを削減する。	リサイクルボックスを設置、裏面の再利用、両面コピーを進め、会議資料の削減に努めた。	○
21. 生ごみ資源化啓発の促進				
資源循環課	ごみ減量推進員・協力員制度事務（ごみ減量化推進事業）	地域でのごみ減量・リサイクル・適正分別の活動を推進する。	ごみ減量推進員会議（3回）、ごみ減量推進協力員研修会を開催した。	○
22. ごみ減量化に効果的な経済的手法に対する合意形成				
資源循環課	食用油リサイクル事業	拠点回収場所を増設する。	連合自治協議会に再度働きかけ、拠点場所を増設した。	○
資源循環課	ごみ処理基本計画の進捗管理	ごみ処理基本計画の進捗管理と改定に向けた審議会への諮問提出を行う。	進捗状況を確認し、審議会委員の意見を踏まえた改定の準備が進んだ。	○
23. 公共事業における建設廃材、建設残土の再資源化の促進				
開発審査課	建設リサイクル法事務事業	発注者・元請業者へ届出義務を啓蒙し、啓発を強化する。	パンフレット配布、電話での届出PR、年2回の全国一斉パトロールを実施した。	○
24. 資源集団回収活動の拡充及び支援				
資源循環課	再生資源集団回収助成事業	地域の集団回収活動活性化のための新たな表彰制度を制定する。	活動団体研修会、助成金交付、優秀団体表彰制度の表彰を実施した。	○
資源循環課	生ごみ減量化大作戦（ごみ減量化推進事業）	段ボールコンポストと生ごみ水切り普及促進事業を推進する。	事業への市民一般募集、市民講座を実施した。	◎
25. エネルギーの使用抑制、省エネルギー機器・設備の導入の推進				
管財課	エネルギーの使用抑制、省エネルギー機器の導入促進	氷蓄熱ヒートポンプのオーバーホールに伴い、省エネ効果を検証・分析する。	電気消費量を平成21年度より0.93%削減できた。	○
斎場管理センター	小型の公用車の運行	官型霊柩車、寝台車を廃止し、兼用の寝台車を購入する。	燃費のよい車を購入できた。	○
大久保市民センター	会議室利用者のマナー向上※	会議室利用者が自主的に地球環境に配慮できるように促す。	会議室申込時に利用者へパンフレットを渡すことで環境配慮を周知した。	○
魚住市民センター	会議室利用者のマナー向上※	会議室利用者が自主的に地球環境に配慮できるように促す。	会議室許可書の裏面を利用し、お願い文を配布することで利用者に環境配慮を周知した。	○
二見市民センター	会議室利用者のマナー向上※	会議室利用者が自主的に地球環境に配慮できるように促す。	会議室許可書の裏面を利用し、お願い文を配布することで利用者に環境配慮を周知した。	○
生涯学習センター	生涯学習センター内機器の電源消し忘れ防止	消費電力量の削減に努める。	利用者への注意喚起、巡回による電源消し忘れ防止に努めた。	△

※達成度 ◎：期待を上回る、○：期待どおり、△：期待を下回る、×：実施可能だが未実施、－：実施予定なし

課名	事務事業名	H22年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
25. エネルギーの使用抑制、省エネルギー機器・設備の導入の推進				
地球環境課	地球温暖化対策推進事業	法律に基づく地方公共団体実行計画を策定する。	環境審議会で計画を審議し、市民とともに考える会を開催した。	○
天文科学館	天文科学館施設維持管理事業	天候や入館者数に応じた空調管理を行い、電気使用量を減らす。	天候や入館者数に応じた空調管理を行い、電気使用量を減らすことができた。	○
天文科学館	公的施設の太陽光発電設置による、省エネルギーの推進地球温暖化防止	太陽光発電を活用した展示を設置する。	太陽光発電を活用した展示を設置した。	○
天文科学館	ブラックイルミネーションの実施	夜間消灯により、省エネルギーを広く啓発する。	ブラックイルミネーションの実施とPR、省エネルギーの推進を実施した。	△
道路管理課	明石駅周辺街路灯のLED化事業	明石駅周辺の道路照明をLED照明器具に取り替える。	LED照明取替え計画を策定した。	○
浄水課	原浄水施設整備事業 配水施設整備事業	浄水場等の電気使用量を27,500kWhにする。 (H15年度比5%削減)	ポンプ容量の削減、高効率機器の導入を実施し、目標を達成した。 (H22年度約26,840kWh)	○
26. 自然エネルギー、未利用エネルギーの利用促進				
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (新エネルギー導入)	住宅用太陽光発電設備を普及する。	助成制度の広報、周知、募集を行った。 (設置助成件数：174件)	◎
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (グリーンカーテンの設置)	市役所にグリーンカーテンを設置する。	本庁舎、保健センターに設置した。 (面積：約150㎡)	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (エネルギーに関するプロジェクト) ※	自動販売機調査結果の分析・公表、エコドライブ講習会の開催、太陽光発電の普及啓発を実施する。	エコドライブの講習会を3回開催した。環境省のチャレンジ25キャンペーンに登録し、メンバーを募集した。	○
明石クリーンセンター	焼却施設運営事業	タービン発電機の蒸気を利用した高効率運転による発電を維持する。	焼却施設を適正に運転管理し、発生した蒸気の87%を発電に利用した。 (目標値70%)	◎
学校管理課	学校施設での太陽光発電の導入	小学校1校に校舎屋上に太陽光パネルを設置する。	貴崎小学校の校舎屋上に太陽光発電を設置した。	○
27. 公共交通機関の利用促進				
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (エネルギーに関するプロジェクト) ※	自動販売機調査結果の分析・公表、エコドライブ講習会の開催、太陽光発電の普及啓発を実施する。	エコドライブの講習会を3回開催した。環境省のチャレンジ25キャンペーンに登録し、メンバーを募集した。	○
交通政策課	コミュニティバス運行事業	コミュニティバスによる公共交通機関の利用促進を図る。 (年間1,000,000人)	利用状況を踏まえ運行内容の変更などの見直しを検討した。 (H22年度利用者867,412人)	△
道路整備課	駅周辺整備事業	駅周辺整備により、公共交通への転換を図る。	東二見駅整備で山陽電鉄と工事協定を結び、工事実施に向けて進めることが出来た。	○
運輸課	バス利用の促進を図る	バス利用促進啓発運動を実施する。	バスの日に、啓発運動を実施し、駅周辺でバス利用促進の呼びかけ運動を実施した。	○
運輸課	バス運転について、低燃費走行を実践する	低燃費走行のバス運転を実践する。	アイドリングストップを徹底、横乗り添乗し低燃費指導を実施した。	△
28. 自動車の適正な利用の推進				
環境保全課	環境共生啓発事業	自動車公害防止啓発事業を実施する。	自動車公害防止に係る啓発事業、大気汚染防止に係る啓発事業を実施した。	○
交通政策課	交通安全啓発・教育事業	年間100回の交通安全教育で市民の交通安全意識の向上を図る。	交通安全教室・ビデオ貸出等の交通安全教育の実施、街頭啓発及び指導を実施した。	△
道路整備課	道路整備事業	道路整備により、環境への負荷を軽減する。(目標：4路線)	用地取得、工事施工について一定の成果が出た。(山手環状線ほか)	○

※達成度 ◎：期待を上回る、○：期待どおり、△：期待を下回る、×：実施可能だが未実施、－：実施予定なし

課名	事務事業名	H22年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
29. 低公害車の普及促進				
管財課	公用車への低公害車の普及促進	ハイブリッド車、エコドライブインストラクターを検証する。	公共交通機関、公用自転車の利用促進、エコドライブインストラクターの検証を実施した。	△
水道部総務課	低公害車の普及促進	車両入替時に低公害車を導入、職員に環境に配慮した運転を周知する。	低公害車を1台新規購入し、2台更新した。	○
消防本部総務課	消防団施設整備事業	既存車両の適正な運用、低公害車の調査・研究を行う。	車両更新はなかったが、エコドライブの推進を啓発した。	—
警防課	消防車両整備事業	規制対象車を更新、適合車両を適正に運行して環境保全に努める。	NOx・PM法の基準に適合した車両更新ができた。	○
30. 透水性舗装の導入による地下水の涵養				
道路計画課	歩道整備事業	歩道整備（5路線）により、安全・快適な歩行空間の確保を図る。	安心歩行エリアについてバリアフリー化を行った。	○
31. 貴重な動植物の生息・生育地、樹木・樹林の保護指定				
地球環境課	環境基本計画等推進事業（自然に関するプロジェクト）※	自然環境データを収集・整理し、里山と里海再生活動を推進する。	里山整備を月1回開催した。「明石の自然歩き隊」を開催し冊子を作成した。	◎
32. 海域・砂浜等の保全及び河川環境の改善				
農水産課	栽培漁業推進事業	定着性の高い種苗を好適地に放流する。	ヒラメ等の計画魚種に加えて、メバル、マコガレイ、マダイの種苗放流を行った。	○
海岸課	海岸施設維持管理事業	海浜地・海浜利便施設を清掃・維持管理し、憩いの海岸環境を維持する。	海水浴シーズンにごみ集積状況の確認を行い、清掃、ごみの処分等に努めた。	○
海岸課	夜間花火規制推進事業	環境基本条例に基づき、夜間花火規制を行う。	海岸に啓発のぼりを設置し、地元や警察との合同パトロールを実施した。	○
海岸課	アカウミガメ保護関連事業	関係機関と協力して、産卵された卵の保護と啓発活動を行う。	出前講座を通じて、自然動物保護の大切さ、海岸美化について啓発した。	○
海岸課	港湾環境美化事業	清掃を実施する。	ごみの集積状況を確認し、東播磨港海岸、南二見防潮堤の清掃を実施した。	○
下水道管理課	河川美化事業	河川区域の雑草を除去する。	県所管の2級河川（7河川）区域の雑草を除去し、河川環境美化に取り組んだ。	○
下水道管理課	排水路浚渫事業	河川水路の汚泥を除去し、草を刈る。	河川水路の汚泥を除去し、草を刈った。	○
農水産課	土地改良事業	明石市ため池協議会を充実する。	新たに1箇所のため池協議会結成に向けて協議した。	○
農水産課	土地改良事業	ため池清掃ボランティア“ため池清掃志隊”を組織化する。	“ため池清掃志隊”の組織化を図る目的で総会を支援した。	○
33. ため池の保全及び整備				
緑化公園課	公園維持管理事業	中尾親水公園を維持管理する。	ろ過施設スクリーンを清掃し、水質浄化の効率が向上した。	○
34. 里山等の市街地周辺の樹林及び市街地における樹木の保全				
緑化公園課	公園維持管理事業	オープンスペースを都市公園として担保し、景観の保全・創造を進める。	樹木の剪定により見通しの良い公園とし、利用者の安全向上に取り組んだ。	○
35. 学校や地域が一体となったピオトープづくりの推進				
下水道施設課	浄化センター維持事業	美化を推進する。	せせらぎ公園の清掃及び維持管理を実施した。	○

※達成度 ◎：期待を上回る、○：期待どおり、△：期待を下回る、×：実施可能だが未実施、—：実施予定なし

課名	事務事業名	H22年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
35. 学校や地域が一体となったピオトープづくりの推進				
学校教育課	環境体験事業	全校で環境体験事業を実施する。情報交換を行い、各校の特色ある活動を推進する。	小学校3年生の子供たちに自然体験活動を通して、環境の大切さを教えた。	○
学校教育課	環境教育・環境学習の推進	環境副読本を活用し、各校の特色を生かした環境学習を実施する。	環境副読本を活用し、発達段階に応じた環境教育を推進することができた。	○
体育保健課	学校園庭芝生化推進事業	新規2校（小学校2）、拡張2校（小学校1、幼稚園1）で実施する。	委託契約の締結、土壌改良・芝張りを実施した。	○
体育保健課	学校給食での地産地消	明石市産の海産物を毎月学校給食に提供する。	月2回明石産のりを提供したほか、旧年度より多くの兵庫県産を使用した。	○
38. 地域住民による自主的な住環境の保全の推進				
都市計画課	地区計画推進事業	地区計画を策定する。（1地区）	アドバイザーを派遣し、助成金交付の協議・調整、地区計画に係る協議・助言、策定を実施した。	○
緑化公園課	花壇コンクール事業（緑化推進事業）	市民がより緑に親しみ活用するきっかけを提供する。	花壇コンクールの開催、表彰式を開催した。	○
39. 公共下水道整備事業の推進による公共用水域の水質保全				
環境第1課	し尿収集運搬事業	適正なし尿収集運搬を実施する。	定期収集を実施するほか、市民からの依頼に即座に対応するし尿収集運搬業務を実施した。	○
環境第1課	清掃総務一般事務事業（浄化槽の啓発）	浄化槽の適正な維持管理を指導・啓発する。	不適正な浄化槽管理者に対し調査、指導業務を実施した。	○
下水道総務課	貸付金、助成金事務事業	水洗便所改造・浄化槽廃止の工事実施者に助成金の交付等を行う。	地元説明会によるPR、普及指導員による利用説明を実施した。	○
下水道管理課	水洗便所普及事業	未水洗化世帯等に対する水洗化の普及促進を図る。	水洗普及指導員の戸別訪問による指導勧奨を行い、早期水洗化を図った。	○
下水道施設課	浄化センター維持事業	機器更新時に低動力機器を採用し省エネルギーを図る。	高耐久、省エネルギー設備を導入し、水質の安定化と環境負荷を抑えた施設に更新した。	○
下水道施設課	浄化センター維持事業	放流水質がこれまでの変動範囲内となるように、維持管理を行う。	季節変動に応じた水処理を実施した維持管理を行った。	○
下水道建設課	下水道整備事業	市街化調整区域等（金ヶ崎地区他）での水洗化を促進する。	未普及地域の解消に向けて、工事を実施した。	○
下水道建設課	管渠更生事業	開削工法の改築工事で、下水道管路施設の新たな耐用年数を確保する。	老朽管調査の委託発注、改築工事の実施設計、発注を行った。	○
40. 道路その他公共施設や工場等での樹木等の植栽による緑化の推進				
緑化公園課	緑化推進事業	家庭等で不要となった樹木をリサイクルする。（目標：150本）	家庭等で不要となった樹木を無償で受け、公園、緑地の公共緑化に活用した。	○
41. 建築行為や屋外広告物の景観に対する指導・助言				
道路管理課	屋外広告物簡易除却事務事業	関係機関との合同パトロールを実施する。	合同パトロール等により、約5,000件の違反広告物を撤去した。	○
都市計画課	景観形成事業	改訂明石市都市景観形成基本計画を策定する。	都市景観審議会を開催し、パブリックコメントを経て、計画を策定した。	○
42. 駐輪場の整備と放置自転車、違法駐車防止対策の推進				
放置自転車対策課	違法駐車防止対策事業	道路交通の円滑化と都市機能の維持・増進を図る。	違法駐車に対する助言及び指導を行い、駐車場利用を推進した。	○

※達成度 ○：期待を上回る、○：期待どおり、△：期待を下回る、×：実施可能だが未実施、－：実施予定なし

課名	事務事業名	H22年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
42. 駐輪場の整備と放置自転車、違法駐車防止対策の推進				
放置自転車対策課	放置自転車対策事業 (放置自転車の整理・撤去・保管)	公共場所の自転車等の放置を防止し、生活・交通環境を保持する。	放置自転車等の移動及び自転車等の適正利用への指導啓発を行った。	◎
43. 有形・無形・民俗文化財等の指定と保存の推進				
地域連携課	文化財保護調査・啓発事業	遺跡、史跡、天然記念物等の指定と保存を推進する。	文化財案内板・標柱5本の立替、文化財防犯・防災パトロールを実施した。	○
44. 埋蔵文化財、文化的景観等の保護意識の啓発				
地域連携課	文化財保護調査・啓発事業	市民の文化財保護意識の啓発と「発掘された明石の歴史展」を開催する。	明石原人祭りにて体験コーナーを設置、出前講座、発掘された明石の歴史展を開催した。	○
45. 歴史的市街地における建物を中心とした景観整備、歴史的まちなみの保全				
道路整備課	電線共同溝整備時事業	電線類地中化により良好な都市景観形成、安全な歩行空間を確保する。	電線類地中化の推進に努めた。	○
都市計画課	景観形成事業	都市景観形成地区の候補地を選定する。	H22年度目標を50%達成した。	◎
その他				
注1 「36. 減農薬農業の普及促進」、「37. 公園や緑地の整備と拡充の推進」は、平成22年度は目標設定がありませんでした。 注2 ※印が付いた取り組みは複数の項目に重複しています。				

※達成度 ◎：期待を上回る、○：期待どおり、△：期待を下回る、×：実施可能だが未実施、－：実施予定なし

環境貢献（取り組み編） 環境基本計画に定める取り組み以外の取り組み：37課38項目

行動内容	部局名	H22年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
エレベーターの使用を控える	秘書課	2 up 2 downは階段を使用する。	2 up 2 downに加えて、下りは基本的に階段を利用しました。	◎
	広報課	2 up 2 downは階段を使用する。	2 up 2 downの徹底により、省エネルギーの推進に努めました。	○
	市民相談課	2 up 2 downは階段を使用する。	環境貢献だけが目的ではなく、健康面も考慮し、全職員が取り組みました。	◎
	政策室	2 up 2 downは階段を使用する。	2 up 2 downの徹底により、省エネルギーの推進に努めました。	○
	緊急経済対策課	2 up 2 downは階段を使用する。	2 up 2 downの徹底により、省エネルギーの推進に努めました。	○
	監査事務局	2 up 3 downは階段を使用する。	2 up 3 downはエレベーターを使用しない意識が定着しました。	○
MY箸の持参運動の促進	総務課	庁外で昼食をとる職員に対しても、MY箸の持参を啓発する。（持参率100%）	MY箸の持参率100%の目標を達成できた。	○
	防災安全課	庁外で昼食をとる職員に対しても、MY箸の持参を啓発する。（持参率100%）	積極的にMY箸を持参するようになった。持参率100%を目指す。	○
	情報管理課	庁外で昼食をとる職員に対しても、MY箸の持参を啓発する。（持参率100%）	庁外で昼食をとる職員もMY箸を持っていくようになった。	○
	工事検査課	庁外で昼食をとる職員に対しても、MY箸の持参を啓発する。（持参率100%）	庁外で昼食をとる職員もMY箸を持っていくようになった。	○
	人事課	庁外で昼食をとる職員に対しても、MY箸の持参を啓発する。（持参率50%）	MY箸の持参率が向上した。引き続きMY箸の持参を啓発する。	○
	人材開発課	庁外で昼食をとる職員に対しても、MY箸の持参を啓発する。（持参率100%）	目標どおりMY箸持参を実施できた。	○
共有文書のネットワーク化による紙使用量の削減	中心市街地活性化プロジェクト	共通フォルダを活用し、文書の共通化を図り、共有文書の紙出力を抑える。	職員が共通フォルダを閲覧することで、文書印刷の紙使用量を削減した。	○
大規模小売店舗立地法に基づく意見調整に関する事務	政策室	大規模小売店舗の変更届に対して、庁内説明会を開催し、意見を調整する。	店舗の立地計画について庁内説明会を開催し、関係部署と店舗の意見調整を行った。	○
電気使用量の削減	職員厚生課	休憩時間の照明の消灯、使用しない時間のパソコン電源をOFFにする。	実施率は70%だったが、職員の環境への意識が高まった。	△
出張における可能な限りの自転車・公共交通機関の利用	管財課	公用自転車の利用を促進し、ガソリン使用量の抑制に努める。	職員用ホームページを通じて、公用自転車の利用促進、利用状況の確認を行った。	△
	男女共同参画課	出張方法を見直し、公用自動車をできるだけ使用しない。	より効率的に公用自動車の使用を目指し、出張予定の調整を図る。	○
	斎場管理センター	出張方法を見直し、公用自動車をできるだけ使用しない。	公用自動車をできるだけ使用しない方法を見つけていく。	△
	コミュニティ推進室	出張方法を見直し、公用自動車をできるだけ使用しない。	出張方法の見直しを図り、公共交通機関や自転車の利用を促進する。	○
	大久保市民センター	出張方法を見直し、公用自動車をできるだけ使用しない。	自転車や公共交通機関の利用を呼びかけにより、自転車利用率が増えた。	○
	魚住市民センター	出張方法を見直し、公用自動車をできるだけ使用しない。	出張方法を見直し、他の部課と相乗りや自転車利用が増えた。	○
	二見市民センター	出張方法を見直し、公用自動車をできるだけ使用しない。	さらに公用自動車の使用を減らす。	○

※達成度 ◎：期待を上回る、○：期待どおり、△：期待を下回る、×：実施できなかった

行動内容	部局名	H22年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
学園内の緑の保全	あかねが丘学園	学園内の樹木を保全する。	野鳥も飛来する緑豊かな学園なので、伐採の必要な樹木の選定を検討する。	○
イベント時における会場で発生するごみ分別の徹底	生活福祉課	イベント時にごみ箱にごみの種類を明示して、ごみの分別を徹底する。	市民の協力が必要不可欠であり、成果がその場で具体的にわかる取り組みである。	○
	通園療育センター	イベント時にごみ箱にごみの種類を明示して、ごみの分別を徹底する。	ごみの分別を徹底し、ごみの減量化を徹底した。	○
	子育て支援課	イベント時にごみ箱にごみの種類を明示して、ごみの分別を徹底する。	講座などを開催する場合は「使用済み紙おむつの持ち帰り」等と呼びかけて、ごみの発生を抑えることができた。	○
	保育課	イベント時にごみ箱にごみの種類を明示して、ごみの分別を徹底する。	ごみを分別表示することで、環境意識の向上へつなげている。	○
	観光振興課※	イベント時に来場者へごみの分別及び公共交通機関の利用を促す。	市主催のイベント実施にあたって、ごみの分別収集を積極的に実施した。	△
階段利用の推進による健康づくり	健康推進課	市民及び市内企業による階段利用を推進する。	JR駅の階段にメッセージを貼付するため、関係機関と準備した。	○
公共交通機関の利用促進	観光振興課※	イベント時に来場者へごみの分別及び公共交通機関の利用を促す。	イベントの告知・広報時に、来場者に公共交通機関の利用を呼びかけた。	△
	交通政策課	たこバスのルート等を見直し、更なる広報を実施し利用を促進する。（目標100万人）	平成22年度は約87万人が利用した。	△
都市公園の整備	緑化公園課	防災設備として飲料水兼用耐震性貯水槽を設置し、外周整備等を行う。	災害時は一時避難地となる松江海岸が完成した。	○
「循環のみち（環境負荷の軽減）」に向けた啓発活動	下水道総務課	下水道に関するイベントを充実し、市民への広報活動を拡充する。	下水道展には多くの市民の参加があり、環境負荷低減の理解を深めてもらった。	○
会計処理事務に必要な帳簿・コスト削減	会計室	各課会計担当者への指導及び研修を実施する。	各課における支出事務の効率化を図った。	○
消費電力が低い器具への交換	市民病院事務局	電球交換時に電球型蛍光灯を取り付ける。	消費電力が低い電球型蛍光灯に30本交換した。今後も順次交換する。	○
コピー使用量の抑制	営業課	紙のリサイクルを徹底し、不要な紙ベース資料を削減する。	ごみの分別を徹底し、紙の有効利用や古紙回収を徹底した。	△
老朽管の布設替えによる漏水の防止及び減少	工務課	老朽管を布設替えする。（目標：5,850m）	漏水調査301km、老朽管布設替工事5,384mを実施し、有収率96.94%と高い水準を維持することができた。	○
リサイクル図書の推進（図書館運営事業）	地域連携課	図書館の除籍図書を、リサイクル図書として活用する。	リサイクル図書フェアを開催し、約1万冊の除籍図書を約2,000人の市民に無償配布した。	○
選挙における開票開始時間の繰上げ・開票時間の短縮	選挙管理委員会事務局	選挙における開票開始時間の繰上げ・開票時間の短縮を調査・検討する。	開票時間短縮に向け、機材等を見直し、研修等を実施する。	○

※達成度 ◎：期待を上回る、○：期待どおり、△：期待を下回る、×：実施できなかった

注1 ※印が付いた取り組みは複数の項目に重複しています。

アンケートのお願い

「明石市環境レポート2011－平成22年度年次報告書－」への
意見、感想、提案をお寄せください。

いただいたご意見などは、次年度発行する「明石市環境レポート2012」への反映、明石市の環境への取り組みの参考とするなど、今後のよりよい明石市の環境行政へとつなげていきます。

お寄せいただいた意見などを次年度の環境レポートなど意見と関係がある環境への取り組みで紹介する場合があります（個人が特定できるような紹介はいたしません）。

裏面アンケートに意見などを記入し、このアンケート用紙をミシン目から切り取り、明石市環境部地球環境課に郵便、またはFAXでお送りください。地球環境課のホームページ「ECOIST」からアンケート用紙をダウンロードし、電子メールでお送りいただくこともできます。

地球環境課のホームページ「ECOIST」

http://www.city.akashi.lg.jp/kankyou/earth_kankyou_ka/ecoist/index.html

問合せ・提出先

明石市環境部地球環境課 〒673-0882 明石市相生町2丁目5-15（保健センター4階）

電話 078-918-5029 FAX 078-918-5107

メールアドレス plan-ems@city.akashi.lg.jp

明石市環境レポート2011-平成22年度 年次報告書-に対する意見

(FAX送付先) 明石市環境部地球環境課 FAX.078-918-5107

※住所などの記入にご協力をお願いします

住所	明石市	性別	男・女	年齢	歳代
名前	連絡先 (電話番号・FAX・E-MAIL)				

1: レポートの内容で関心を持った項目に○をつけてください(複数選択可)。

- () 明石市のめざす環境像
- () めざす環境像を実現するために
- () リーディングプロジェクトの取り組み状況
- () 自然環境保全への取り組み
- () 地球温暖化対策の取り組み
- () 環境首都コンテストへの取り組み
- () 明石市環境マネジメントシステム
- () 平成22(2010)年度の事業評価表
- () その他 ()

2: レポートの編集方法やレイアウトについてあてはまるものに○をつけてください。

- 1) 文章量について
 - (a. 多い、 b. 適当、 c. 少ない)
- 2) 文章表現や使用している語句について
 - (a. 難しい、 b. 苦勞なく理解できる、 c. もう少し専門的な内容がほしい)
- 3) 図表や写真の量について
 - (a. 多いので減らすほうがいい、 b. 適当、 c. 少ないので増やすほうがいい)

3: レポート全体についてご意見・ご感想をお聞かせください。

切り取り線